

— 軟包装の知識について短期習得を目指す —

第36回

フレキシブルパッケージコース

■ 開催日：令和元年11月8日(金)10:00~16:30

■ 会 場：公益社団法人日本包装技術協会 A会議室

■ 主 催：公益社団法人日本包装技術協会

受講のお勧め

フレキシブルパッケージ(軟包装材料)は、プラスチックフィルム、紙、金属箔などを原材料として製造される柔軟性のある包装材料である。これらは食品、医薬品などの内容物を直接包装するため高度な品質保持機能や安全・衛生性が求められる包装材料である。

すなわち、「内容物保護性」、「流通適性」、「表示機能」など、包装材料としての基本機能に加え、「安全・衛生性」をも配慮し、柔軟で薄い原材料で包装設計を行うには「原材料に関する知識」、あるいは「製造工程に関する知識」ばかりでなく、「内容物が包装され製品となるまでの各種プロセスに関する知識」を十分に活用しなければならない。

この講座は、フレキシブルパッケージの企画、開発、製造、などに携わる方々を対象とし、フレキシブルパッケージ技術の根幹となる包装設計を行うための基本的な知識を短期間で習得できるようにプログラム致しました。この機会に関係各位お誘いあわせのうえ、ご参加下さい。

プログラム

● 11月8日(金) 10:00~16:30

時間帯	講義内容
10:00 } 11:00	1. フレキシブルパッケージ(軟包装)とは ・包装産業におけるフレキシブルパッケージの位置づけ ・フレキシブルパッケージの市場規模 ・JIS(日本工業規格)による定義 ・関連する法令及び業界団体の自主基準概要 ・技術・開発の歴史
11:00 } 12:00	2. フレキシブルパッケージ用原材料について ・プラスチック(レジン・フィルム) ・紙・金属箔 ・インキ・接着剤 ・原材料の衛生性(食品衛生法・各自主基準・海外法令等)
— 昼食休憩 —	
13:00 } 14:00	3. フレキシブルパッケージの製造について ・印刷工程 ・各種ラミネーション工程 ・後加工工程(紙袋・スリット) ・製造工場の衛生管理(衛生管理自主基準)

時間帯	講義内容
14:00 } 15:00	4. フレキシブルパッケージの設計について ・包装設計を行う上での基本的な考え方 ・内容物品質保持のための包装技術 ・食品を中心とした個別の包装設計事例 ・物性評価について
— 休 憩 —	
15:15 } 16:15	5. フレキシブルパッケージを取巻く話題 ・機能性パッケージの開発事例 (レトルト対応・電子レンジ自動開封パウチ等) ・包装分野に関連する最近の社会的動向 ・食品衛生法の一部改定について ・海外のフレキシブルパッケージ
16:30	6. 質疑応答

● 講師紹介

下山田包装技術事務所 所長 下山田 正博 氏(包装管理士)

略歴 1974年 早稲田大学 理工学部応用化学科修士
同年 大日本印刷(株)入社 中央研究所、軟包装製造工場、包装企画開発部門、
海外包装部門等に在籍、その後、軟包装衛生協議会 常務理事を経て、
2014年より現職
専門：包装材料開発、包装設計

